

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	戦略経営	身分	教授
氏名	松下光司		
NAME	Koji Matsushita		

中央大学特定課題研究費による研究期間終了に伴い、中央大学学内研究費助成規程第15条に基づき、下記のとおりご報告いたします。

1. 研究課題

災害後の心理状態が食の消費増加に与える影響

2. 研究期間

2021・2022年度

3. 費目別収支決算表

掲載省略

4. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

本研究は、災害によって喚起される心理状態が、災害後に食の消費に与える影響を明らかにするものであった。企業からの2次データの提供を受け、東日本大震災などの災害時のデータの分析に取り組み、かつ、仮想シナリオを用いた実験によっても仮説モデルをテストする予定であった。

研究成果として、2つの点をあげることができる。第1は、2次データの分析が実施され、一定の成果を見出したことである。東日本大震災を契機として「アルコール消費」と「調理に注ぐ努力」が影響を受けていることが明らかになっている。

第2は、とくに「調理に注ぐ努力」に関わる現象を説明するモデル、および理論的背景を特定化したことである。「調理に注ぐ努力」を「cooking effort」（調理努力）として概念規定し、「不安感」、環境への「コントロール感」を媒介変数とするモデルを設定した。セラピーやリハビリに関する文献のなかには、調理に従事する努力によるベネフィットが示されている。この領域の知見を消費者行動に適応している既存研究は、知る限りでは見ることはできない。

今後は、次のような2つの事項に取り組むことで、研究成果の公表に向けて努力していきたい。第1は、別の2次データで結果を補完することである。他のデータから、かつ、他の災害（たとえば、熊本地震など）においても、同じような現象が見られるかを確認すべきである。第2に、2次データ分析が終わった後、モデルを精緻にテストする心理実験を行うことである。オンライン実験、対面実験といった複数の方法から、予測のテストをする予定である。

（英文）

This research proposes unrecognized cooking phenomena: consumers facing a disaster devote considerable cooking effort. Our research adds to the extant understanding of cooking activity by investigating the process through which consumers alleviate their anxiety triggered an unprecedented event such as a pandemic, natural disaster or terrible accident.

We propose that the elaborative cooking appears in this context: When a terrible event triggers high anxiety, the negative mood may encourage to set a goal to regain a sense of control, evoking cooking effort. This occurs because the cooking effort (e.g., taking much time to transform raw ingredients into attractive dishes) can induce a sense of dominance (feeling in control), which can retake to control over the situation. Thus, when consumers in a terrible event that has not previously occurred feel high anxiety, they can devote to much cooking effort (as opposed to when feeling low anxiety).